

◎令和元年度事業運営の特徴と課題

1. 各介護保険事業の状況

(1) 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特別養護老人ホーム %	92.4	93.8	95.5	96.0	95.3	93.6	93.8	92.9	94.2	92.7	92.8	93.0	93.8% (99.5人)
ショートステイ %	180.0	171.9	170.3	154.5	150.7	151.3	171.0	159.0	169.7	173.9	184.6	168.4	167.1% (16.7人)
特養/SS合計 %	99.9	100.5	102.0	101.0	100.1	98.6	100.5	98.6	100.7	99.7	100.1	99.5	100.1% (116.1人)
デイサービス (一般) 人数	37.7	38.4	37.4	36.7	36.1	36.4	38.4	39.3	39.1	37.9	36.2	37.6	37.6
デイサービス (認知) 人数	11.6	12.1	12.1	11.7	11.2	10.9	10.8	10.8	11.2	11.2	11.3	11.1	11.3人
デイサービス 合計 人数	49.3	50.5	49.5	48.4	47.3	47.4	49.2	50.1	50.3	49.1	47.5	48.7	48.9人
居宅 ケアプラン 件	91	94	92	93	96	97	105	103	102	103	99	104	98.3件
包括 予防プラン 件	453	446	450	442	451	445	464	468	475	467	463	451	456.3件

(2) 特別養護老人ホーム／介護老人福祉施設の利用状況 (定員 106名)

年間利用人数は36,400名(99.5人/1日)でした。入退所の状況は、新規入所者が29人(昨年比76.3%)、退所者も29人(昨年比67.4%)でした。令和2年3月31日時点の平均年齢は、男性が81.2歳(昨年比-0.1歳)、女性が87.4歳(昨年比-0.4歳)で、最高年齢は104歳(女性)です。また、平均要介護度は3.56で、要介護3以上の入所者が全体の89.7%(昨年比-0.2%)でした。「看取り介護」は14人(昨年比36.8%)実施しました。

(3) ショートステイ／短期入所生活介護の利用状況 (定員 10名)

年間利用人数は6,095人、年間稼働率は167.1%でした。昨年より540人、稼働率で14.9%増加しています。令和元年度は、特養稼働率が入院等の理由で低い中、ショートステイの稼働は大幅に上昇しました。例年通り困難事例も積極的に受け入れ、利用ニーズに最大限対応しました。

(4) デイサービス／通所介護事業の利用状況 (定員一般50名、認知22名)

年間利用人数は15,110人。1日平均利用人数は一般デイ37.6、認知症デイ11.3、合計48.9人でした。一般デイでは編み物・麻雀・カラオケ・脳トレ・折り紙・習字・絵手紙・趣味活動やレクリエーション等、複数のメニューを用意し、ご利用者に毎日3種類程度のメニューから自由にお選び頂いています。また、個別機能訓加算Ⅰ、運動器機能向上加算を算定し、理学療法士と看護師を中心に実施してレクリエーションの中にもリハビリの要素を取り入れました。生活機能向上を目的とした体操と、身体機能維持を目的とした小グループ・個別での訓練を行いました。

認知症デイは一般デイとは別の部屋にて静かで落ち着いて過ごせるような家庭的な雰囲気づくりを心掛けています。活動には自宅でも行っている掃除や食器洗いの家事等も取り入れて自立支援につなげています。その他、認知症進行予防の回想法や音楽療法士によるプログラムも実施しました。

(5) 居宅介護支援事業

ケアマネジャー3名の体制で運営しています。内1名が主任ケアマネジャーを取得し、特定事業所加算Ⅲを算定開始しました。ケアプラン数は介護予防を含めて1カ月平均で98.3件お受けすることが出来ました。

特定事業所加算の算定に伴い、営業時間外も24時間連絡可能な体制としています。また、週1回程度事業所内で会議を実施することで地域ケアマネジメントの質の向上に努めています。研修については、外部研修への参加に加え、他法人との合同事例検討会も開催することで制度理解や専門性を高めるよう努めています。また、高齢者あんしんセンターとの連携によって困難事例の対応や相談支援業務も行っています。

(6) その他

第三者評価の受審

東京都福祉サービス評価推進機構の評価者による第三者評価を、特別養護老人ホーム、一般デイ、認知症デイそれぞれで受審しました。ご利用者/ご家族、職員のアンケート調査、業務内容やサービス内容も含めて多角的な観点から評価されました。良好との評価を頂いています。評価結果は今後のサービス向上に活かして参ります。

2. 北区委託事業

(1) 高齢者あんしんセンター事業（地域包括支援センター）

高齢者あんしんセンター(地域包括支援センター)事業を北区より20年4月に受託してから12年が経過しました。圏域の高齢者人口は約6,695人、高齢化率は40.8%、後期高齢化率は25.8%、区内でも非常に高い数字となっています。地域活動としては、自治会、シニアクラブ、民生委員の方々との連携強化に努めております。そのほか、地域へのアウトリーチの一環として、赤羽台UR団地出張相談窓口を週1回開催、自治会が行うサロン活動へのサポート、ふれあい交流サロン(園芸サロン)開催など積極的に展開しています。さらに地域への認知症周知活動として、小学校・中学校での特別授業も計2回実施しており、地域で高齢者の方が安心して生活できるような環境作りにも取り組んでいます。また、地域公益活動として、桐ヶ丘商店街の中に「桐ヶ丘サロンあかしや」を、他の社会福祉法人と共同運営しています。その活動の中で「みんなの夕はん処」として地域食堂を2ヶ月に1回開催しました。また、今年度より毎週火曜日に朝食、体操、社会参加を活動の軸とした「朝活」を開催しました。

(2) 高齢者住宅事業

現在高齢者住宅2棟、計50戸に対して、各棟1人の生活援助員(LSA)を配置しています。高齢者住宅2棟の生活援助員による活動状況は、訪問371件、警報機対応35件、家事援助3件、不在対応8件、相談0件、その他267件でした。不在対応の内訳は入院時の対応がほとんどです。また、その他は、介護援助要素の強い方の呼び出しや対応、住宅供給公社、北区等との調整事項です。なお、生活援助員はコミュニティ支援、ケース会議にも参加しています。

(3) 北区認知症高齢者一時保護事業

北区内での迷子老人の保護施設として事業参画して9年目になりました。令和元年度は、依頼件数が減少し、保護実績として3件で、延べ日数では6日間の一時保護を行いました。